

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 4 月 27 日 (2006.4.27)

【公表番号】特表 2005-526778 (P2005-526778A)

【公表日】平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)

【年通号数】公開・登録公報 2005-035

【出願番号】特願 2003-576589 (P2003-576589)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/713 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/12 (2006.01)

A 6 1 K 39/39 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/713

A 6 1 K 39/00

A 6 1 K 39/12

A 6 1 K 39/39

A 6 1 K 39/395 V

A 6 1 P 37/04

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 3 月 9 日 (2006.3.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

二本鎖 RNA を含む、抗原に対する T 細胞応答を増強するための組成物。

【請求項 2】

二本鎖 RNA が、ポリアデニン及びポリウラシルから成る ds RNA 配列、ポリグアニン及びポリシトシンから成る ds RNA 配列、又は、ポリイノシン及びポリシトシンから成る ds RNA 配列である請求項 1 の組成物。

【請求項 3】

抗原を更に含む、請求項 1 又は 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記抗原が医薬的に許容される担体に添加されて投与される、請求項 3 に記載の組成物

。

【請求項 5】

前記抗原が免疫グロブリンである、請求項 3 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記免疫グロブリンが Ig G である、請求項 5 に記載の組成物。

【請求項 7】

抗原が腫瘍関連エピトープである、請求項 3 ～ 6 のいずれかに記載の組成物。

【請求項 8】

抗原がウイルスである、請求項 3 ～ 6 のいずれかに記載の組成物。

【請求項 9】

腫瘍関連エピトープが腫瘍関連 T 細胞エピトープである、請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 10】

二本鎖 RNA と抗原とを同時に投与するための請求項 3 ～ 9 のいずれかに記載の組成物。

【請求項 11】

二本鎖 RNA を投与した後に、抗原を投与するための請求項 3 ～ 9 のいずれかに記載の組成物。

【請求項 12】

T 細胞が、Th 1 細胞又は Tc 1 細胞である、請求項 1 ～ 11 のいずれか 1 項記載の組成物。

【請求項 13】

非感染性抗原と、ポリアデニン及びポリウラシルから成る二本鎖 RNA 配列、又は、ポリイノシン及びポリシトシンから成る二本鎖 RNA 配列とを含む、非感染性抗原に対する大量寛容を防止するための組成物。

【請求項 14】

非感染性抗原と、ポリアデニン及びポリウラシルから成る二本鎖 RNA 配列、又は、ポリイノシン及びポリシトシンから成る二本鎖 RNA 配列とを含む、T 細胞の応答を防止するための組成物。

【請求項 15】

非感染性抗原がウイルスである、請求項 13 又は 14 に記載の組成物。